令和4年度 No.4

駒岡小学校だより

7月号

直接の出会いや体験から学ぶ

校長　岸田 薫

今年は梅雨らしい雨の日が続くなぁと思っていたら、あっという間の梅雨明け宣言。6月とは思えない猛暑日が続く中、7月を迎えます。駒岡小学校でも、横浜市教育委員会のガイドラインに基づき、1～2時間に1回、暑さ指数（WBGT）を計測し、熱中症予防のための運動指針を目安に予防対策を講じたり、教室では適切にエアコンを稼働させたりしながら、日々の教育活動を行っています。

気温の上昇とともに気がかりになるのは、マスクの着用です。学校では、熱中症が命に関わる危険性をもっていることを踏まえ、運動時や屋外での活動時、登下校時等には、話をしないこと・一定の距離を保つことを守った上で、マスクを外すように指導しています。

とは言え、新型コロナウイルス感染症の心配がなくなったわけではありません。感染への不安からマスクを外せずにいる子や、長いマスク生活でマスクを外すこと自体に抵抗を感じる子など、子どもたちの反応は様々です。しかし、県内の学校でも、熱中症による救急搬送が報告されています。学校でも、熱中症の怖さを伝えながら、今後も状況に応じたマスクの着脱について指導してまいりますので、各ご家庭でもお声かけいただければ幸いです。

さて、6月は、各学年の行事が目白押しの一か月でした。1年生の三ツ池公園遠足、2年生の八景島シーパラダイス遠足、3年生のズーラシア遠足、4年生の野島宿泊体験学習、5年生の三浦宿泊体験学習。どれも、コロナ禍で実施できずにいた校外での行事です。今年は、様々な制限はあるものの、ようやく、実施することができました。

コロナ禍が学校教育に与えた影響の中でも、「直接体験の喪失」は、たいへん大きなものだったと感じています。人との対話や関わり合いといった、直接、人とふれ合う体験や、実際にその場に行くからこそできる体験があります。本物体験の中でこそ得られる学び、本物体験の中でしか得られない学びがあります。遠足や宿泊体験学習は、こうした豊かな学びの宝庫です。

全校遠足とは打って変わって自立した姿を見せた1年生。巨大水槽を前に、思わず歓声が上がった2年生。もう少し動物を見ていたかっただろうに、別の学校の子にそっと場所を譲った3年生。初めての宿泊に、楽しさと同時に難しさを学んだ4年生。漁師の知恵と技術を実感した5年生。それぞれに、それぞれの学びがありました。直接の出会いや体験、人との関わりの中から生まれる協働的な学び、これこそが「学校で」学ぶ意義なのかもしれません。

今後も、今できることを最大限に工夫しながら、駒岡小学校らしい教育活動を進めてまいります。ご家庭や地域のみなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。